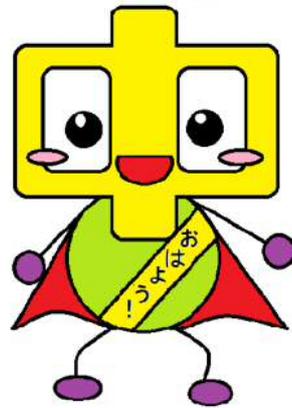


平成26年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



中新田小学校マスコット「中っち」

海老名市立中新田小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5
(資料) 指導や学習・生活習慣と学力との関係	P. 6



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが、昨年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

【中学校】

国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成26年4月22日（火）



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○「言語事項」の分野では、正答率が高く、漢字の読み書きと故事成語の用法や文の意味のつながりを捉え、適切な表現を選択する問題をよく理解しています。特に、漢字の書き取り問題の正答率が高く、理解が定着していることがうかがえます。

○「読むこと」の分野では、物語の登場人物の相互関係を捉え、物語の一部に適切な人物名を記入したり、新聞の投書を読んで表現の仕方として適切になものを選択したりする問題は正答率が高く、定着している児童が多くいます。

《努力を要する所》

○「話すこと・聞くこと」の分野では、立場や根拠を明確にして発言する際に、一定の立場に立ってはいいるが、根拠を明確にした上で発言する点に課題が見られます。

○「言語事項」の分野では、様々な漢字の「はかる」という言葉の意味を正確に捉え、その使い方について適切に選択する問題に課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○討論会の司会の役割として「討論会の様子」を正確に読み取り、話し合いの観点を整理したり、質問者のねらいを捉え適切に選択したりする問題は、よくできています。

○詩の表現の特徴を読み取り、適切なものを選択することができます。

○疑問を解決するために、目次や索引の中から必要な情報を得ることは、よく理解できています。さらに、分かったことや疑問に思ったことを関連づけてまとめる力を伸ばしていきたいと考えます。

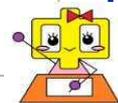
《努力を要する所》

○「詩を比べて読む」問題では、詩の解釈として適切なものを選択できた児童が少なく、二つの詩を読み比べて自分の考えを書くことができない児童も多くいることに課題があります。(自分の考えを書く設問は最終問題で無解答率が高く、時間の確保に課題があります。)

○科学的な読み物では、分かったことや疑問に思ったことを関連づけ、それをまとめて書く問題に課題があります。

今後の具体的な取組

今回の調査においては、B問題全般について正答率に課題があります。そこで、「基本的事項の活用」という視点で、今後の国語の授業改善を図る必要があります。日頃の学習において「話すこと・聞くこと」については、相手の立場を意識して、話すことや聞くことの充実を図ります。また、目的に応じて資料や情報を収集し、比べて読む力や相手に伝えるように書く力の指導を重点とします。さらに国語学習だけでなく、各教科・領域において、表現力を伸ばし、「言語活動の充実」を図る必要があると考えます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算」の分野では、異分母分数のたし算の問題はよく理解できています。また、示された分数の中から1/2より大きな数を選択する問題も理解できています。
- 「量と測定」の分野では二つの数量の関係において、単位量あたりの表を選ぶ問題の正答率が高い状況です。円周を求めたり、直方体の体積を求めたりする問題もよく理解できています。
- 「数量関係」の分野では、かけ算とひき算が混在した問題の正答率が大変高い状況です。
- 全般的に無解答率が低く、児童の意欲がうかがえます。

《努力を要する所》

- 「数と計算」の分野では、割合が1より小さい場合の比較量を求めるときに、小数倍することに課題が見られました。
- 「図形」の分野では、コンパスを使っでの平行四辺形の描き方について、その特徴を活用して作図することの理解が曖昧な児童が多くいます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

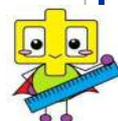
- 示された計算のきまりを基に、計算結果の見通しを持ち筆算する問題の正答率は、大変高い状況です。(37×7, 37×8, 37×9の積の比較)
- 2ヶ月間の水の使用量を基に、プールの容積の何倍かを求める問題は、よく理解できています。また、全体と部分の関係を示すための適切なグラフを選択することもよくできています。
- 全般的に無解答率が低く、児童の意欲がうかがえます。

《努力を要する所》

- 説明をもとにして、37×24の積が888になることを書く問題や、示された分け方で残りの30人にスूपを分けることができるかを選択し、その理由を書く問題は、正答率が低く課題があります。
- 示された情報をもとに基準量の1.5倍の長さを表している図を選択できるかの問題は、正答率が低く課題があります。

今後の具体的な取組

日常や身近な場面から、基準量と比較量をとらえ、数量の関係(基準量、比較量、割合)を図に表したり、図から読み取ったりする指導を大切にします。また、示された資料・情報から、言葉や図等の様々な方法で表現することの指導の充実を図ります。今後は「算数タイム(朝自習)」の内容を工夫するとともに、学習のめあてを明確にすることや、数量・図形・グラフ等から気づいたことや読み取ったことを意見交換するために児童がお互いに話し合う時間を確保するなど、校内共同研究(算数科の研究)の成果を生かし、さらに学習の理解が深められるように授業の改善を図ります。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○「授業の中で分からないことがあったらどうすることが多いですか」の設問では一番多かったのが「その場で先生に尋ねる」です。

○家で宿題や復習をやっている児童の割合は「している」「どちらからといえはしている」と答えた児童が全国平均を上回っています。

○「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解して使用していますか」の設問では、8割以上の児童が肯定的な回答をしています。

○国語の問題で解答を文章で書く問題では、「全部書こうと努力した」と回答した児童が多かったです。

《課題と思われる所》

○「算数の授業の内容はよく分かりますか」という設問では、「どちらかという当てはまらない」と回答した児童が2割程度いました。

○「読書は好きですか」の設問では、「当てはまる」と回答した児童は47.3%でした。

生活について

○就寝、起床時刻については、ほとんどの児童が規則正しい生活を送っていることが分かります。また、朝食をきちんと食べている児童は95%近くいます。

○「将来の夢や目標を持っていますか」については、8割以上が肯定的な回答をしています。

○「家の人と学校での出来事について話をします」についても、8割近くの児童が肯定的な回答をしています。

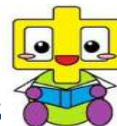
○「学校のきまりを守っている」「友だちとの約束を守っている」という設問については、9割以上が肯定的な回答をしていて、児童の誠実さがうかがえます。

○「学校に行くのが楽しい」については、肯定的な回答が9割近くいる反面、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した児童が10%程度いることは、学校としての課題です。

○「友だちに伝えたいことをうまく伝えることができる」については、肯定的な回答が全国平均を下回っています。

今後の具体的な取組

「家庭での学習時間や読書に費やす時間は」についての設問は、全国平均です。学校としては、今後も家庭学習の充実や読書活動の推進を図る必要性を強く感じています。「友だちに自分の気持ちをうまく伝えることができる」については、肯定的な回答が6割程度であることから、今後の学校生活の中で、教科の学習だけでなく特別活動(学級活動、児童会活動等)においても取組を充実していかなければならないと考えます。「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答している児童の割合は、これまでと比べやや高くなっていますが、参加している児童はまだ多くはなく、今後も地域と協力して学校運営を進める必要があります。全体的に、多くの設問について概ね肯定的な回答が得られた反面、否定的な回答をした児童もいて、学校として、一人ひとりの児童に対応したきめ細かな指導・支援を行っていく必要があると考えます。



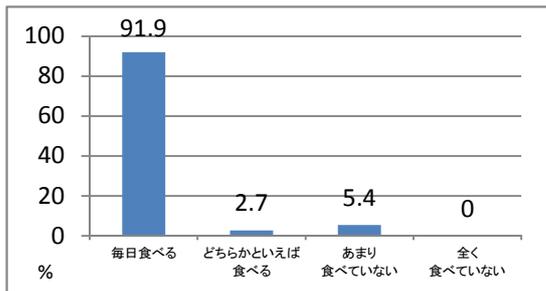
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 毎日、朝食をとりましょう。

「早寝・早起き・朝ご飯」を実践しましょう。

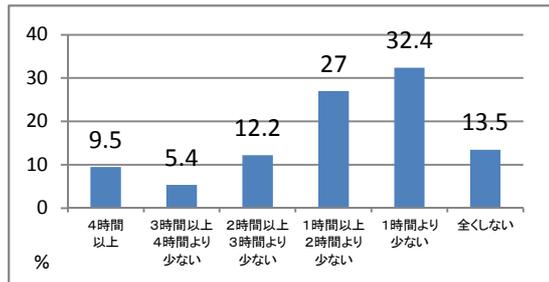
朝食を毎日食べていますか



2 家庭でルールを決めましょう。

テレビを見る時間、ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンに費やす時間を約束しましょう。

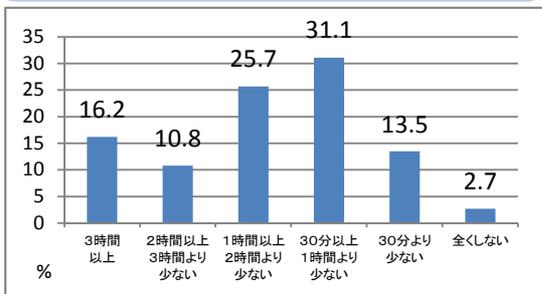
普段一日当たりどれぐらいの時間ゲームをしますか



3 家庭学習の習慣をつけましょう。

学年×10分を目安に家庭での学習時間を決めましょう。

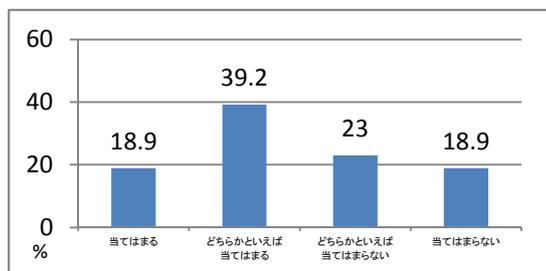
普段、1日にどれぐらい勉強しますか



4 地域の行事に進んで参加しましょう。

地域の行事に参加して地域の一員としての意識を育てましょう。

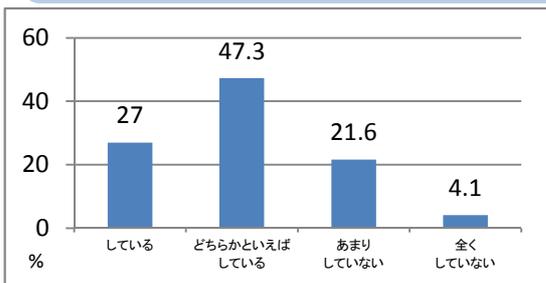
今住んでいる地域の行事に参加していますか



5 失敗してもがんばる心の強さを身につけましょう。

進んで挑戦することのよさと失敗をしてもがんばる心を育てましょう。

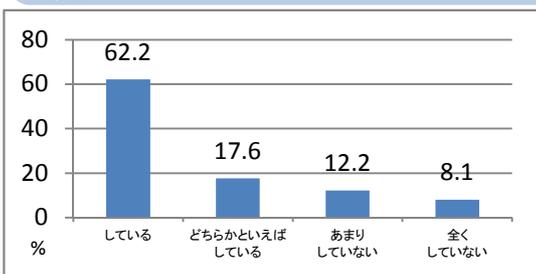
難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか



6 子どもとたくさん話しましょう。

学校での出来事について話をする時間をつくりましょう。

家の人と学校の出来事について話をしますか



資料

指導や学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ており、今後の指導や家庭・地域への呼びかけに生かして行きたいと考えています。

学校における指導と学力との関係

次のような指導を行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
さらに、学習意欲や家庭での学習時間等についても高い傾向にある。
(教科に関する調査、学校質問紙調査より)

【指導方法・学習規律】

- ・ 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持徹底
- ・ 学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導
- ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える
- ・ 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導

【国語科・算数科の指導方法】

- ・ 発展的な学習の指導
- ・ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
- ・ 算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業

【言語活動】

- ・ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 発言や活動の時間を確保した授業
- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 資料を使って発表ができるよう指導
- ・ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導

【総合的な学習の時間】

- ・ 総合的な学習の時間における探究活動(課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導)

【家庭学習】

- ・ 調べたり文章を書いたりする宿題を与える

【研修】

- ・ 教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映

児童の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
(教科に関する調査、児童質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・ 国語、算数に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・ 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・ 自分で計画立てて勉強をする
- ・ 学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・ 読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・ 先生は、自分のよいところを認めてくれると思う

【基本的生活習慣】

- ・ 朝食を毎日食べる
- ・ 毎日、同じぐらいの時刻に寝る

【メディアとの関係】

- ・ 携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い
- ・ テレビゲームをしている時間が短い

【家庭でのコミュニケーション等】

- ・ 家の人と学校での出来事について話をする
- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【社会に対する興味・関心】

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 新聞を読んでいる
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る

【自尊意識・規範意識】

- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・ 学校のきまり・規則を守っている
- ・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

「えびなっ子しあわせプラン」ってなあに？

「えびなっ子しあわせプラン」は今年度から平成28年度までの3年間の海老名市の教育プランです。

ひとりひとりの海老名の子どもが、将来、しあわせに生きるために必要な「3つの力」を小・中学校の義務教育9年間で、学校や家庭、地域の教育をとおして、確実に身につけることを目的としています。

◇◆しあわせに生きるために必要な「3つの力」◆◇

学 力

大人になっても学習をつづけるために
基礎的な学力と学習意欲を身につけよう！



.....
教員の授業力を高めます。（授業改善の取組）



.....
小中一貫教育を進めます。（試行校での研究）



.....
市費の教員やボランティアを配置します。

集団力

人間関係を作り、集団の中で自分の役割を果たし、
自分を生かす力を身につけよう！



.....
人間関係作りの学習計画を作成します。



.....
いじめや不登校の問題に積極的に取り組みます。

健康安全力

自分の健康や安全に気をつけて、
いつまでも楽しく生活する力を身につけよう！



.....
体力・運動能力の向上をめざします。



.....
自分の命を守るための学習計画を作成します。

学校と家庭と地域がスクラムを組んで子どもを支えます



みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

海老名市教育委員会



平成26年12月